

絲樓春蝶奇縁

後編

三

13 遠
1579
8



門へ遠13
1578

絲櫻春蝶奇縁卷之八

東都 曲亭馬琴編述

第十二段

洞房小新郎を走らば殺風景
忍浪は光棍を刺さ震雷電



識りぬ六郷は此をめでし。おの別の下をたは後丁をさし志と糸の糸糸の
まはるる月。されば阿保のふも。わで狭七と婚姻をせやくはけりつ髪を
あびて化粧して腹更る衣の煩惱の垢をうし。ま白小袖冥土へ晴衣とてろふ。
佛と憑無垢世界。西平の秋の色うら悲しきものや。今の青清ある糸の
糸と結ぶ縁と。孺子の帯。あかた敷たふたまで。庖福のそりた焼魚上を下と
か下する。十兵衛が料理は。旦那が並る。碗打敷とて。海陟を中へ。背家の
家と小女見小権。まよある高笑ひ。追後口。一貫中。物と。糸細と。十兵衛の

糸櫻春蝶奇縁卷八

立あがり。且阿が耳小口紙さうせ。初俄頃ある。婚姻あらば飲食ふ工も家のうち
なうら。實さなるるけい。孟の献酬。此ころのあつた。さうとむくつけき
家々ならふ。的を執せん。後あるべ。曩よ。おん。小密路。る。小糸のうら。づ。膳
蘭て。奉動も。正首。今宵の。初。彼女子。次。催。不。や。と。あ。ひ。おん。牙。さ。う。の。ふ
そ。や。と。阿。且。阿。さ。う。ら。と。京。改。その。一段。の。ふ。は。り。綱。五。郎。の。お。の。底。を。明。地。は
告。う。せ。せ。終。り。や。商人。の。経。営。が。う。ら。う。と。も。里。は。由。緒。ある。親。の。蹟。を。あ。つ。た
他人。よ。と。せん。と。て。校。七。を。阿。徳。さ。う。の。あ。ひ。つ。り。な。う。い。そ。が。は。婚姻。の。此。彼。は。情。由
る。ら。び。や。い。づ。の。め。ど。と。た。お。う。せ。よ。け。小。糸。と。や。ん。と。居。び。う。て。吾。儕。も
ある。人。ま。る。い。時。宜。ま。う。が。綱。五。郎。お。う。す。次。籍。小。訊。録。と。ら。い。ろ。め。ぬ。女子
な。う。ら。直。さ。は。角。めて。今。宵。う。ら。彼。人。の。女。房。と。い。つ。る。さ。た。い。二。丈。婦。は。く。と。雷。を
ころ。ら。門。も。強。る。が。先祖。へ。孝。親。これ。は。ま。る。と。い。は。れ。じ。と。く。居。ぬ。と。信。と。う。て。

いそがされつ。十兵衛のものが宿所へまきりまて。猶て小糸をおと見れば。且阿を
燈燭さへ向て。侍より。近く。招。れ。う。つ。と。ん。て。榮。示。と。笑。ま。う。は。は。い。る。標。致。の
愛。う。い。い。と。な。う。が。少。許。阿。徳。は。似。る。あ。あ。う。今。宵。さ。た。め。て。あ。ひ。は。る。綱。五。郎。が
妹。且。阿。と。名。を。さ。と。も。大。う。ら。強。て。家。は。よ。は。め。ぬ。一。樹。の。蔭。も。化。生。の。縁。さ。う
ら。ま。る。い。と。い。は。れ。う。う。い。て。と。も。婚姻。の。孟。を。納。り。ま。て。使。ま。ぬ。と。叮。嚀。小。
い。人。は。咎。る。い。れ。ど。も。腹。さ。し。こ。お。意。は。る。せ。と。塞。る。胸。は。禁。あ。ぬ。涙。の。雨。の。笠
や。う。う。と。俯。て。泣。て。ま。り。つ。て。座。席。の。燈。燭。の。花。は。咲。も。新。郎。の。袂。七。も。衣。裳
整。つ。泣。敷。か。う。と。向。ひ。ゆる。阿。徳。は。今。宵。彩。婦。の。花。さ。の。雲。委。時。を。名。の。じ。て。お。の
底。の。深。山。木。の。か。え。ぬ。標。よ。き。も。あ。り。香。も。た。る。人。と。あ。さ。る。ら。ふ。稚。枝。を。あ。い。り
結。び。と。め。綱。五。郎。の。布。子。の。う。ら。は。標。縫。上。下。引。ひ。て。肩。の。折。月。高。胡。坐。行。う。く
る。ぬ。上。坐。子。且。阿。の。冬。の。婿。櫻。や。り。花。と。う。ら。律。言。の。禁。守。の。神。り。月。は。鄰。る

菊月五りの日長夜とゆは秋の夜を十代の下めと被りて。十丘岡の遠くは
片袿釋捨く袴の前勿結びあひて。且岡が傍に坐せ下まは細五郎も膝
組直し。亦も酒も阿希ひつる。今宵ハ特小勞し。仕夜ホカ聞淨の裁
判中る爲もよる盃の献酬と六格別る。式作法あづけまて。人もさるの縁は
さぶゆほし。阿希よ姨也よ形のごて。彼ホホ不盃さてと。といは且岡のちち
笑て。婚姻の盃の女子が下めて男子ホ献といふや。雅もあれど吾儕もさて
よらあ。されれば死人とまてえ。晴ちある席あわぶ。家の内にもさる親
あ。さぶゆほもさる取隨るこそ。親もほゆるはけ。且言のまじく。侍れも。先妻の
糸脈といは。ち身ひつる。不在さる。小商人の経営のい。とさ。教さ。とて。理なくも。
阿孫執七とさ。つゆい。相續人不定めさる。是も。服さ。縁と。さ。ハ。む。く。り
ゆで。され。ハ。阿孫も執七も。ゆ。く。り。た。時。夫。を。さ。て。婦。と。さ。む。も。う。た

事ある縁ど好も。女も下さる。以や。且。六。方。ら。ど。勝。ど。鄙。小。稀。る。二。未。も。
いと。無。つ。は。ま。夫。婦。之。が。改。ま。バ。近。き。ら。は。て。う。ひ。く。と。も。あ。ら。け。は。後
巡り。も。志。の。ふる。縁。あれ。は。こ。そ。う。ち。の。つ。と。阿。德。ひ。て。さ。る。れ。庇。を。受。る。尼。也。前。の
と。級。忘。ま。て。校。七。ハ。又。綱。五。郎。が。戒。む。背。く。と。さ。る。夫。婦。力。を。さ。し
あ。の。法。業。を。さ。る。繁。昌。せん。と。う。と。拵。起。さ。さ。る。化。の。體。を。續。人。の。志。の。け。ひ
こそ。肝。要。る。れ。又。阿。孫。も。さ。る。は。さ。下。め。う。る。姑。お。さ。る。姑。ハ。終。て。は。春。の。嫁。菜。も
秋。も。れ。は。尾。花。さ。る。ま。の。九。十。九。髪。衰。れ。た。ハ。女。子。も。り。賢。い。さ。ら。て。い。ふ。は。あ。の。は。
昔。悔。し。れ。は。う。へ。を。つ。た。夫。婦。お。ひ。は。て。お。し。か。ら。ぬ。を。も。り。あ。ら。る。は。と。
正。首。ホ。教。諭。せ。さ。る。阿。德。ホ。う。つ。ま。は。る。ほ。ほ。と。綱。五。郎。ハ。欠。伸。て。腕。を。捨。り。
よ。十。糸。屋。の。婚。姻。でも。縁。也。下。又。う。り。お。し。か。ら。ぬ。の。教。訓。あ。ま。り。小。長。と。れ。ハ。盃。ハ
沈。の。汀。よ。耐。繪。の。鶴。龜。千。代。万。代。の。子。と。孫。と。繁。昌。の。辛。臺。あ。ら。る。掉。せ。る。吾。儕。か



綱五郎
 義を仗て
 大總を挾ては
 妻を

女流二艘の入船繁花甲... 陰陽和合の天港... 桃子の... 是首と見え... 十兵衛の小膝... 猛小の... 物ひろ... 早く... 難て... 岩田帯... 妻を... あして... くら... 幼く...

かふ牙を起... 桃子の... ころ... 紙門の裏... 便り... 昔... 所... 物... ち... 催... ぬ...

阿徳の意思はひのちを彼のまうく痼疾を獲たゆゑの目もあやうく小糸のこふ
 せせよかむりつが瘡るふれんれどあみ田不町不使者の多し。使者の中で只ひとり
 使者のつらゝ綱五郎は一旦ひつと言茶の金石今こそあれ後くハ三人四人が眠りく。
 阿徳はあやうたる世はあまんとあまのれと減たさるるの姨母は彼をがらちしとく。
 盃を握りて阿徳が肩をふ推居れば早瀬はあつて息を切れたん身あふさるも
 せで小糸紙へへ入るるを腹するの理あるとと彼女の問近う。おん身が頼本
 おく来る女つと推しあつて情由あふの疾もあまふ。とらせもあ(む
 声もぬり立益あるた工取宣ふる水上清き玉川の玉もど水も産湯とて身の幅
 廣き男子一足柱土むとれたの各中員てもきよ深くぬ綱五郎が。あまをさるや
 ちのよる姨母のよまれもあれ阿希のあはれはしあひはしとさあふ教圍ど。
 十兵衛死する涙を夢り。あまをあが候る。極はあひつろとあつて。菖蒲のくへ

赴くといひ放て入日東の偏意地さひうはぬれ牙が足を繫ぎ甲の情由あり
 げる。小糸はまふめりのあづらと先へ階に「滅の溝通ととさふのさるぬ僻
 事彼女子小智のほ「十兵衛が面小親てゆるもの宣ふるゆであさるる四海浪
 枝をさるるぬ相生の枝とていふ。愛しけれ宣ふゆであさるる」と桃子とさるるさ
 つくまは。早瀬うとさるる盃を受る阿徳は今又は後火を握るを死しつ飲せ。あて
 るも飲ど。ささう下小園を杖七も首は推辞ゆとさるるあぐる盃のそとさるるさ
 ぬ三三九度ややく中夏果一ふ。綱五郎の盃をさる納つ後方ふるさるこれ彼は阿
 うつて初夜のたやるあつん秋の月の輝たよむのそ死のさせられて杖七のこを
 疲勞けぬ。危瀆のよの阿希姨母が。さうゆくとさるれば阿徳もさるく臥せへ
 吾儕ハ又席をりえて阿希と廊まで一献酌ふ。とハ十兵衛うらと良現媒
 約ハ甲夜の夜杖七の阿徳の衣服うと。寝入るの。といそがせども。あふさる

あゝる渚鳥がしぐぬ床の海うら歎きよほろろ移て。又次の間へ退けは巨團の
係とんあつらくある痛くやうら移して難の小糸よめ久くけぞのへ不疼の理
より軟ん身あつ溜せふ同よあつらうありらう儂てのそわぬ風ひ
へたよと正首は雲時背とん捨り。誘もてそひせとらう。隨より記せ
袖とさえぬ紅涙庭の楓樹と深あざ夫のかまき糸のきれあぶる汗暖簾
腰は桐る母子草。母の女見とつちる子と又親と志ら土の礎とらから小
ちうらなく。伴るぞ哀まるる。程は阿總杖七のうらふ深ぬ色るは一夜を
くまらう。若く臥房あ入りのうら阿總のいまも臥かせと願襟よ入る。
雲間ぶるる袖の両方里のうら親の事夫のうらとせむひる。夫のこまあり。
あざとまればと今又八重結る。妹と伏の縁を恨むらふ。神あはれを
おあひの杖七の枕よりてひら臥ても睡れど。ころあふ小糸がのちもか
ても忍容と。しづみまわらば。かとも武運竭されは連は宿願を果
へうもあぶる。小一文字の羽織のうら。詭謀尤うら任。圓塚山の麓を追捕の
武士を殺す。罪犯と牙小負て死む。受る思も背む。此を恥をさるの。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
後空憚の裳脱て。紙物をも。轉とる。小糸。新獲の阿總。謀ある
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。

あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。
あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。あつらう。

ひくべきと臍を伸とせしむ袖をぬき挿ひて目を見たり夫とあり婦とあり。
 皆を神の心為るべしとて人を怨むべき況んや死するをいふてあが夫の心は
 つれて強顔物とてとらまへん死しむと悲しく侍りし。色むよあまの袖の雲
 果敢る死すは墓の死のこの身ひつらふとあまの縁故こそ告げければあまの
 稚さうり云早うと夫ありその夫を捨れても操はうえぬ雪の松子の目乃
 春ふあつて申し袖を墨染に染て浮世の山より尼とあるづくさひる宿願の
 えの遠き言は脱とぬ今そのことつれあめりの今あるに己に死ねば婚姻の
 不血をむひくと種で骨を究めよう。いつかあまの身を妻とす。あまの過世の
 仇ありけん。傷るぬを操を。目今まじ侍りて。南無阿弥陀仏と唱あまの
 准候やあまのけん。油力中ふくし。刀子を抜出でて。呪ふ突立んとまじりて。
 狭七の岸破と刃を起して吐嗟とまじり。携り留め玉とある。金とある。命とあり

すくも仙貨とある。死しとせしむ。縁道理は稱あまの。われ又とつて。殺さる。
 まづ天刃を放りいさく。放さば。死す。と平の声もたどる。外への。ぬ
 屏風の背も小糸の如く。腹は。と竊笑は阿徳が。声狭七も共まじりて。ぬ
 いさう。定まる。杯も。笑ふ。ぬ。まじりて。茶臺を。微とら。茶壺も。
 屏風を。敷く。まじりて。狭七の。や。刀子を。奪ひ。とら。外面へ。跳り。出れば。倒さる。
 屏風は。紅焼。とら。威。黒白。暗夜を。微。伴。小。背。門。下。り。懸。て。脱。出。れ。
 夫ハ三輪の林も。杯も。跡も。あ。ま。の。草。環。の。小。糸。も。共。一。町。あ。ま。の。喘。
 まじりて。辛。く。袂。を。引。苗。や。等。も。あ。ま。の。平。あ。ま。の。ぬ。今。ま。の。光。景。
 あん。月。の。刃。も。あ。ま。の。何。れ。も。ま。ま。の。同。じ。て。狭。七。の。後。方。と。ん。あ。ま。
 原来。小。糸。の。ち。ち。や。く。い。が。跡。跟。て。ま。ま。の。便。を。と。野。干。玉。の。鳥。夜。子。
 停立。嘆息。と。ま。ま。の。甲。夜。は。阿。徳。と。臥。房。の。入。り。ま。ま。の。彼。女。子。

幼採と聞くは彼人の既夫あり。口れも又婦いあれど狭七かみ及びて去れど。
 夫の爲お情を逆自殺せんと志すに、
 其の刀子八則を置く。武運微く勢場なるに、勸む存命とも。黒平と云んを
 怒むるべし。文字の陣羽織を、復と云ふも、さすに。然るは、さすに。復と云ふも、
 又、身と云ふ。その心くても死と云ふも、身と云ふも。魏珠丸が罪ふるに、細五郎も又
 吾儕は代りて彼陣羽織を、謀。謙舎に進するも、いん、身いり、艱苦堪
 憂を忍びて、身を愛し、腹を安らふ。産て養育を、あつ。又、尉するは、申
 あつらん。是より直は、糸倉へ、ゆりて。これの、小、秘密なる、魏珠丸は、告、甲衣
 ふられ、一件を書遺し、他人の、石の、體へ、入、且て、死、され、此、彼、竟は、符、合、せん。
 心、つ、道、次、小、仲、夜、つ。も、る、小、靴、逆、ひ、小、把、て、肚、を、切、ら、ん、と、
 たり、し、る、小、糸、ハ、よ、と、は、あ、と、夫、の、巻、を、替、と、引、り、あ、形、を、見、し、り、み、て、死、ん、と、
 めい、決、め、り、る、理、お、似、く、理、あ、ら、ば、死、ん、と、云、ふ、と、身、を、爲、お、縁、余、あ、つ、
 あり、お、あ、つ、と、り、し、と、斬、り、前、の、縁、を、連、と、助、ら、れ、る、の、事、な、ら、ぬ、も、其、世、を、あ、つ、
 草、結、が、思、の、娘、も、婦、と、思、し、夫、と、舟、眉、裏、と、す、ら、小、腸、を、断、ち、ら、る、あ、つ、
 旅、宿、と、述、ゆ、ら、る、一、文、字、の、陣、羽、織、を、索、絲、糸、と、身、の、ぬ、れ、衣、も、遂、竟、お、た、義、
 小、靴、ん、爲、る、と、也、也、然、る、女、に、く、思、苦、小、道、り、て、志、を、得、り、果、は、獲、ら、ん、と、死、
 長、を、代、り、任、を、死、と、忠、義、ある、は、あ、り、や、か、り、ら、る、が、ら、お、さ、て、後、又、い、男、あ、る、
 だ、た、は、新、婦、出、前、の、小、靴、と、は、な、ら、ぬ、と、死、ん、と、思、ひ、多、い、は、彼、人、の、心、を、何、と、欲、
 其、の、情、を、別、は、し、と、恨、む、は、つ、つ、口、説、き、り、勇、を、卷、の、り、は、た、だ、一、る、涙、の、玉、散、あ、る、
 音、は、ら、い、を、放、べ、お、ん、牙、が、練、言、説、き、て、好、存、命、と、い、ふ、背、く、和、を、思、ふ、も、志、が、
 か、程、何、の、里、も、身、と、縣、一、魏、珠、丸、の、消、息、を、定、ん、後、は、も、あ、つ、も、何、う、ん、と、
 る、は、ら、い、も、せ、お、諸、の、烏、夜、を、よ、い、且、逐、る、互、向、も、身、を、縣、と、ん、と、い、ふ、

小糸のうらなを... 懐紙へ紅包と... 女子刃を奪... 持とて... 祇包の結目... 小糸ハ吐嗟... 細五郎が... 燭臺を... 危瀕の物... 姨の... あり... おまそ... 護... 姨と捨阿... 妻... 小糸と... 微八を... 管領家の...

小糸明家宗葉子長...



大總おひさ 死しと
 決けつて狭ちやう七しち
 五ご律りつ七しち





こよみの死罪を犯す。脱走しよと考へつゝも。今更事と惜ひよあはれ彼陣
 拘獄せり復して杖七よ世よおと彼も又恩を不仕て阿總からいへばさ
 る。姨阿希の文後をいひて鹿野よあへば形か今より彼夫婦を細五郎と
 齊せい心たすへ只此の世の世よい又いふも面あひせんよあるふなうら
 その益をいへ入賜へるが死別まふと死を決する壯士の言察は且角はら
 騒ぐ胸のこいそ苦くて涙を禁ずるは十兵衛の首尾はく上るは嗟嘆
 ん人を教へて教へる。團法の脱走を記や守の兵士を害ひての逆徒は等一木を
 伐草を並排ひ索らまへの必定あり後悔を及ぶと。さうとても絆の起る
 杖七るふびや。彼の追捕の兵士を殺しつゝあふふととも。真發覚えよ及びて
 ん牙ひらうを罪のひていそ杖七を救ふ。あつて今彼人よこの肆を相續させ
 阿總を妻よのよと長女の計策よのべ所詮おんが罪よ代す。十兵衛を

預まば。ちん牙のうは恙あり。杖七も服さす。あぶ。この麿い安穩ある。こたへる外は
 術もほ。吾儕はまほしむ。福といは。綱五郎改を掉。阿希が義心の牙ふらう。と
 感謝は堪ど。まらあれど。さふ仗て。命を軽し。人の為小牙を殺て。悔しとせ。さう
 綱五郎が。あぶ。阿希を菊狗中。一。日。うらも。阿容と。助る。す。双折。お言。
 狭七。うら。易。の。ぬ。比。管領。うら。彼。一。文字。の。陣。羽。織。を。索。祿。ひ。て。進。じ。る。は。
 罪。あ。つ。の。も。その。罪。を。赦。さん。と。令。させ。む。ひ。ぬ。め。れ。且。く。こ。が。牙。を。殺。し。て。黒。平。が
 所在。を。索。祿。件。の。羽。織。を。う。復。して。狭。七。小。通。と。ま。彼。が。こ。小。恙。の。れ。の。さ。の。は。伏。
 孫。倉。へ。百。う。さ。れ。て。忽。地。は。没。跡。あ。ん。さ。ら。ぶ。その。縁。は。連。く。姨。阿。總。亦。も。う。ら。ふ。よ。ん。
 僕。侍。の。う。ら。う。と。や。ハ。穿。鑿。さ。牙。小。る。が。ぬ。間。は。影。を。暗。し。迹。を。埋。め。陣。羽。織。を。う。
 復。さ。る。死。て。快。者。と。い。つ。う。よ。し。暇。あ。う。と。と。後。方。あ。る。戸。棚。を。礎。と。し。用。て。
 敷。墊。の中。刀。を。う。ら。う。う。ら。う。を。起。せ。ば。や。う。等。の。へ。と。十。兵。衛。ハ。希。う。り。遮。り。苗。う。

小。ぞ。早。閑。ハ。袂。は。携。り。著。て。う。や。く。小。推。居。つ。腹。を。め。て。と。浮。ん。び。て。あ。る。は。あ。り
 ぞ。ま。の。人。の。為。と。う。信。ハ。杜。士。の。日。本。魂。を。ぶ。け。れ。と。猛。も。度。ふ。う。ら。う。と。う。徑。を。
 し。ど。が。主。阿。総。の。ま。ふ。い。う。う。う。は。あ。る。は。思。あ。る。人。の。子。を。殺。し。て。後。ハ。管。領。乃。
 此。内。の。武。士。の。姑。と。い。つ。う。も。何。う。か。せん。死。ん。と。い。ハ。思。養。の。任。代。ら。ん。と。い。ふ。ひ。ら。の
 兄。い。づ。し。を。ら。づ。れ。と。い。は。げ。ん。た。こ。の。身。ひ。ら。の。胸。の。苦。し。此。ハ。ど。い。や。う。も。小。糸。と
 何。れ。の。も。う。ん。と。う。き。て。苗。う。と。声。立。て。ゆ。め。は。ほ。ま。と。憚。う。の。せ。れ。る。む。う
 哽。り。つ。れ。十。兵。衛。も。鼻。う。ら。う。ら。う。と。豆。を。つ。け。こ。る。お。ん。牙。が。快。氣。ワ。ら。う。の。ハ
 禁。め。得。ど。必。死。を。決。て。る。ど。て。又。小。糸。を。誘。ひ。出。し。ひ。言。と。初。ひ。と。お。ぼ。じ。う。ら。う。
 今。又。い。づ。ま。の。命。の。て。彼。女。子。を。娶。ア。の。ふ。と。結。ま。そ。は。完。然。と。笑。え。阿。希
 姨。小。疑。と。痛。う。ぬ。腹。を。探。う。う。の。指。め。れ。と。ふ。こ。そ。彼。小。糸。の。と。い。は。さ。と。う。
 言葉。の。腰。お。る。阿。總。が。泣。声。袂。七。巾。を。逐。て。と。向。う。あ。り。と。叫。び。う。奥。う。

去りし人。三人奔。うち驚き。さうその友を。阿保の涙を。拭ひ。
 匿と。これと。和し。や。つら。の。知と。知。云。号。る。夫。の。國。隔。ま。わ。ひ。も。さ。と。
 見。も。せ。ぬ。う。ち。小。集。ん。れ。と。一。旦。夫。と。定。め。る。標。き。れ。く。破。じ。と。お。ひ。
 友。子。代。入。と。婚。縁。を。結。ぶ。と。て。そ。れ。の。生。き。と。推。辞。し。も。腹。を。こ。て。獲。ま。と。
 ひ。と。う。臥。房。ふ。入。る。の。う。ら。臨。て。死。ん。だ。究。め。し。う。希。夫。が。婚。縁。の。聘。は。賜。じ。
 刀。子。の。家。正。が。旭。と。や。う。ん。小。朝。子。金。玉。の。胡。蝶。あ。り。艱。苦。の。中。小。夫。の。ど。せ。め。て。夫。の。
 紀。念。する。又。ふ。伏。して。死。な。す。と。件。の。小。朝。を。抜。出。して。自。害。せ。んと。ま。け。り。は。秋。七。
 ぬ。し。禁。め。れ。又。を。奪。ひ。ま。れ。る。夏。の。懸。櫻。小。屋。風。を。倒。し。紅。燈。を。い。り。う。ら。
 滅。し。た。か。の。人。と。そ。が。伴。は。暗。夜。は。紛。れ。小。を。汲。お。て。背。門。下。り。ま。り。ま。り。し。き。
 け。い。と。又。を。奪。れ。い。死。ん。と。さ。る。ふ。る。も。死。ま。と。其。外。皇。首。う。と。檢。括。お。し。
 され。と。昔。の。刀。子。の。う。ち。物。は。白。と。扇。あり。こ。の。研。と。も。ひ。ら。臥。房。を。さ。て。次。の。
 間。ある。掛。燈。蓋。ふ。り。と。ま。れ。は。舊。里。あ。の。り。と。死。男。の。懇。望。辞。ひ。う。と。け。い。の。か。
 さ。さ。の。れ。草。の。う。ら。古。歌。を。書。写。して。贈。る。扇。あり。こ。の。扇。を。め。て。人。外。ま。ま。
 あ。づ。も。ゆ。も。と。今。ま。ま。の。秋。七。ゆ。い。ま。早。の。夫。あり。けん。面。義。認。る。後。は。向。由。
 せ。ど。い。か。う。も。昔。の。り。遺。憾。の。百。夜。う。た。揚。の。揚。揚。の。口。發。と。も。言。さ。ま。
 し。も。ま。ま。と。う。た。件。の。扇。と。あ。あ。と。い。ひ。う。獲。て。お。肉。け。が。食。り。ち。と。も。い。
 くれ。と。ん。て。い。せ。の。海。の。玉。の。浪。よ。と。う。ひ。か。ひ。あ。る。浦。の。春。と。こ。ま。く。原。來。
 秋。七。の。あ。ん。が。が。為。小。集。ん。る。夫。あり。秋。七。の。あ。ん。が。の。う。た。い。ひ。あ。る。が。ら。た。や。く。も。
 小。糸。と。その。り。逐。電。し。る。か。宴。の。あ。る。が。帯。か。ぬ。夫。あり。これ。か。と。思。れ。果。
 領。は。嘆。息。し。し。り。く。細。五。郎。由。嗟。嘆。し。る。燈。指。も。か。ひ。み。れ。情。縁。送。憾。の。
 ぞ。ひ。か。あ。ん。が。夫。の。舊。の。名。の。神。原。秋。七。郎。と。い。は。さ。る。や。と。向。れ。て。死。死。を。世。に。
 そ。の。う。ら。して。ま。ら。れ。けん。と。研。と。の。聲。を。し。そ。の。主。君。の。為。は。思。各。成。厭。の。と。

間。ある。掛。燈。蓋。ふ。り。と。ま。れ。は。舊。里。あ。の。り。と。死。男。の。懇。望。辞。ひ。う。と。け。い。の。か。
 さ。さ。の。れ。草。の。う。ら。古。歌。を。書。写。して。贈。る。扇。あり。こ。の。扇。を。め。て。人。外。ま。ま。
 あ。づ。も。ゆ。も。と。今。ま。ま。の。秋。七。ゆ。い。ま。早。の。夫。あり。けん。面。義。認。る。後。は。向。由。
 せ。ど。い。か。う。も。昔。の。り。遺。憾。の。百。夜。う。た。揚。の。揚。揚。の。口。發。と。も。言。さ。ま。
 し。も。ま。ま。と。う。た。件。の。扇。と。あ。あ。と。い。ひ。う。獲。て。お。肉。け。が。食。り。ち。と。も。い。
 くれ。と。ん。て。い。せ。の。海。の。玉。の。浪。よ。と。う。ひ。か。ひ。あ。る。浦。の。春。と。こ。ま。く。原。來。
 秋。七。の。あ。ん。が。が。為。小。集。ん。る。夫。あり。秋。七。の。あ。ん。が。の。う。た。い。ひ。あ。る。が。ら。た。や。く。も。
 小。糸。と。その。り。逐。電。し。る。か。宴。の。あ。る。が。帯。か。ぬ。夫。あり。これ。か。と。思。れ。果。
 領。は。嘆。息。し。し。り。く。細。五。郎。由。嗟。嘆。し。る。燈。指。も。か。ひ。み。れ。情。縁。送。憾。の。
 ぞ。ひ。か。あ。ん。が。夫。の。舊。の。名。の。神。原。秋。七。郎。と。い。は。さ。る。や。と。向。れ。て。死。死。を。世。に。
 そ。の。う。ら。して。ま。ら。れ。けん。と。研。と。の。聲。を。し。そ。の。主。君。の。為。は。思。各。成。厭。の。と。

ぬれ衣を被て瀬余夜逐電せしる名を交て狹七とりの神原かるとまふ
移る名昔のわづらひのけん痛し。しるは阿徳の塚を移る。うとほつ伏は
細五郎のつと。とんせつと又嘆息。現象たの理である。狹七がうを推量
彼形るた身とせし。移る事彼羽織とせし復とよりあるは。隨は黒平を認る
し。つれは代して死んとせき去りし疑ひは。今更狹七を死しとの伎者と
しる。わいもる。遠くのゆじ追留る。阿徳の塚を移る。姨母の彼を勤り
あ。阿希の又門預て。おの狹七をおとせし。もといひのあ。又申力を
さ。さけい。夏より別る。壮士がうし。の麴の樞戸を尾落し。礮と引関は。黒白の
別と晴夜は。秋風寒く吹入して。雨さいつ。降をび。十五夜。か。う。あ。て。
壁あけける傘と。う。う。て。さ。せ。右。右。ひ。受。つ。裳。を。引。折。て。跳。ア。し。あ。お。
外面の内。の。う。を。竊。け。し。る。小。賊。六。七。人。山。魁。小。馬。栗。の。あ。も。あ。梓。春。果。と。
あ。と。固。免。十。の。早。索。の。あ。て。耕。と。あ。つ。り。お。の。日。圓。塚。の。あ。つ。り。

あて追捕の兵士を砍倒し。罪人狹七郎を合意。癖者細五郎を解よと
管領の仰を受けて。岩藤尾乃右。あ。つ。て。あ。つ。れ。り。外。と。も。う。を。脱。と。せ。し。腕。を。
束縛して索を受よと。異口同音よ。あ。つ。り。け。る。秋。の。豹。脚。駝。の。烏。夜。の。声。を。あ。つ。て。
ら。つ。ら。に。聞。け。ば。細。五。郎。此。の。騒。が。ど。寔。は。犯。せ。科。の。脱。と。せ。し。命。を。惜。む。あ。
あ。と。孫。ど。も。憑。ま。し。る。の。ゆ。あ。つ。れ。今。の。解。と。受。か。し。遠。く。は。面。傳。と。八。王。
寺の君所へ。あ。つ。ら。ん。上。ご。ま。の。あ。つ。れ。の。ん。誰。様。丸。の。細。五。郎。逃。せ。ば。隠。
ま。の。せ。ど。通。と。と。衝。て。入。る。物。を。し。つ。せ。て。撃。倒。し。て。索。を。被。よ。と。伍。平。太。が。
あ。つ。り。十。の。を。肉。し。小。賊。ホ。の。共。は。驚。ひ。蒐。る。状。物。も。せ。ど。な。ご。り。あ。つ。ら。と。
傘。と。の。の。小。腰。骨。打。お。り。し。倭。僧。も。あ。り。鞭。が。も。あ。り。組。人。と。の。の。蹴。倒。さ。し。
起。ん。と。の。の。際。彌。ら。れ。道。の。ぬ。ら。ふ。こ。孫。と。せ。し。蹴。場。の。泥。の。飛。花。を。あ。つ。り。

新撰源氏物語卷八

十五

烈し夜嵐の音は紛れをまがく内まわくともまがくはかたのぬる
 せとの声し人夥東のゆきまきりきり足音ふ十兵衛の耳を側ごとく
 鎖する樞戸を又引開て外面を透りあむおのれ綱五郎の伍平太を
 打ちまよる程は逃げまじり小馬栗徹八の背より刀を抜るは只一刀と
 とる又の光り小十兵衛の吐嗟とをうり子あひくる鎖を磔小馬栗か
 巻を下と打うれて刃を身理と落し怯むを獲てまきり鬼て項上纏て二三
 筋斗をうじて投退まは綱五郎の背のゆふ人ありとよふを山魅亦を追
 六七歩立のどろと十兵衛遙本透りまきり家公お怪我のありて
 阿希り十兵衛刀祢欽ころの各脩よりち修杖七がる飛まろるると
 向小馬栗のややく小牙を起し刀を拾めて十兵衛を破らんとするは左へ
 外し足を飛して礮と蹴る蹴られてぬきび倒る飛起し由立と踏居るま
 何のぞとをまろく。且角が裡面よりさし物と紙燭の光よまむも三入の面を
 わらうこれのどろ吹入る風は紙燭をうち滅され善悪のた鳥夜は降る
 雨ののしほは綱五郎の杖七が跡を追まきりいとも危き別是あり。

第十二段の下

題目前お出り

半胸黒平の夜より伍平太徹八と共まきり屋が廊の外面より立在る内の
 中張小行は杖七が小糸張おてまきり去る。律の為体は竊盗と忽比
 るまきり。件の杖七はひの嬢の仇人あり。小糸の原は賊物あり。後今綱五郎と徒搏
 するもの。そのは只怨復とのまきり。これまきりて所得は山魅小馬栗亦の綱五郎を
 足と縁と管領の兵士は打拵て矢意は打中るもの。あふ十ふ九の漏を
 小糸が位平太徹八は任し。これ杖七を追まきり。あふの嬢背棋の讐を報ひ。又あふ
 小糸を奪て物せん。這奴亦が往方定るまきり。縁と黒白も別ぬ鳥夜なれば。

間道へまゐるべし。由あまご。まゝ一條の奥街道湯島越千束村の外へ
 急ぐ。急ぐ。追入と尋思て。伍平太微八小密結つ。欲あつた。ついでに
 夜を物もせと。糸屋が。門をひらき。鳥越のく。派をのて。喘ぎ。追入。行小
 暴雨。猛小降。を。たて。雷。さ。い。い。く。鳴。を。め。た。電。間。あ。く。して。ま。け。は。早。れ。と。道
 ころ。あ。ま。ご。ま。ま。く。して。忍。の。岡。忍。の。沈。の。畔。ま。で。ま。よ。け。ま。ご。の。ま。ご。使。七。ホ。ま。追。由
 つ。と。ど。利。欲。小。生。死。を。者。さ。る。癖。者。あ。れ。と。も。い。く。疲。勞。て。い。ふ。ふ。と。も。御。さ。け。ま。ご。
 沈。の。畔。あ。い。と。あ。い。る。松。の。幹。小。牙。を。倚。り。け。て。雲。時。晴。々。と。ま。ち。ら。し。ら。が。ま。ご。の。外。小
 時。も。と。つ。つ。と。遠。寺。の。鐘。を。樓。ま。つ。暗。小。近。く。浩。尔。伍。平。太。微。八。小。細。五。郎。よ
 う。ら。教。え。れ。小。賊。ホ。が。往。方。さ。る。ま。ご。の。僅。二。入。車。と。東。北。を。投。て。ま。ご。の。湯
 島の神社。よ。坐。ま。ご。づ。して。雨。も。や。歇。く。火。を。燃。て。蕉。火。と。う。照。し。宵。の。不。便。を
 眩。さ。る。黒。平。が。迹。と。暮。暮。と。忍。が。岡。ま。ご。ま。よ。け。れ。半。胸。へ。火。ま。よ。ま。ご。も。る。と。ま。ご。
 透。り。て。ま。ご。の。小。馬。栗。小。は。あ。ま。ご。と。ま。ご。と。ま。ご。の。び。け。ら。れ。て。雨。個。の。悪。提。い。そ。く

樹蔭は集合。細五郎小懸悩。れ。辛。く。玉。の。緒。と。う。と。め。愈。教。く。あ。り。い
 ころ。馬。俵。を。着。る。ま。ご。黒。平。ま。ご。と。ま。ご。の。あ。ま。ご。の。ま。ご。の。ひ。は。一。度。ま。ご。の。二。び
 三。び。這。奴。ひ。と。り。小。不。学。ん。と。う。と。ま。ご。の。あ。り。け。り。獲。七。を。追。つ。せ。が。二。歩。ま。ご。も
 ま。ご。ま。ご。の。揃。ひ。は。揃。ひ。奴。原。あ。り。と。教。團。あ。り。く。罵。ま。ご。伍。平。太。微。八。の。派。を。奪。り
 半。胸。の。焦。燥。あ。り。の。雅。う。の。其。れ。は。由。断。ま。ご。の。家。の。内。の。ま。ご。の。う。ら。割。と。夫。庭。小
 索。と。被。べ。け。れ。と。這。奴。は。先。と。替。り。て。廣。場。の。突。戦。ま。ご。の。暗。雨。三。降。て。自。在
 る。ま。ご。の。判。事。屋。の。老。管。十。兵。衛。ま。ご。の。奴。が。助。太。刀。ま。ご。の。ま。ご。の。俾。易。ま。ご
 隊。伍。と。乱。し。網。の。魚。籠。の。鳥。と。ま。ご。の。細。五。郎。と。ま。ご。の。逃。せ。し。の。所。以。こ。ま。ご
 け。れ。と。も。細。五。郎。の。吾。們。と。扇。谷。ま。ご。の。討。ひ。の。女。士。と。ま。ご。の。あ。り。れ。が。早。く。の。身。を。隠。と
 へ。ま。ご。の。び。く。不。限。窓。て。所。在。ま。ご。の。あ。り。ま。ご。の。ま。ご。の。生。拘。て。今。夜。の。孤。を。憂。め

めいひくま吐く多ひそと動解まど黒平夜せど且くして怒をなめ。よも
 しくも今夜の雨の細五郎亦が幸あり。衣をいしく濡る小樹の下小左在く。
 寒さ冬より暖るに「乾く物ある野火焼つけよ」といふせが小馬栗のこころを
 乃て彼此をわらうつ。塘の下る稻塚を解毀し木の枝をおとすて松の
 火をさし著る小青みからる。晚稻の稿雨ぬれる生木の枝は傾ふ火の
 うらぶと半晌といふ性急黒平ハヤ焦燥て牙を起しつ天を仰ぐ星
 のまろも睡る不逆。さあて時をうらぶ被士のいしく遠く走らん。これ秋と
 小糸と怒る山魁小馬栗のうそおとす。とどく物くげ小脇當
 脇當て泥塗まふる。さかすか途まで天を明まが必入はあやめをん
 汝達この如く夜をうえてはうらぶ。千束村を俟てをくせよと
 いひもあまど東を撥て去まが伍平太の恨む目送て嘆息し時を勢とて
 とどまら。口は圓場あり。月ハ千餘人が大なる金銀を食ふ飽足り。
 そのと死の矢を擡て向上ともなせざる。半晌馬られ理る死體も阿容とら
 ばてを死にさやぐまを馬に在ひて。非常の草木も傷る秋焼はれども生
 憎小煙のさめて燃はせどある腹に。と嘆き泥塗ま下脇當脇當四天を
 纏て脱さく塘の上る樹の枝へはさる。投掛まが微ハも共上帯解く。腹
 捨る衣を塘の上小投まら。池の汀の樹下小外目もなせど。一対ひて燃つ。火
 火を吹てまら。移は細五郎の狭小糸が往方を索て。さうらばも忍の岡乃
 るさうまど。牙はけし。雨聲で星まら。おし秋の季もさうら。いとい
 濡ま下る。曉の風層を徹して寒はといふ。もあど。さうまが池の畔る。
 樹の下小入さうら。ついの。秋と只管火を吹く。のあり。やう。明ぬ夜の懸ふ
 金さ。濡る衣を乾かす。とて暗き塘と遠く。まら下る。樹蔭のいせ。

并みちと左手も。株不尻をあげて。伍平太微八八んつれども。鳥夜るが楚と云う。えい。さるさるさるさる。迷下して。こゝ何れより。さあひる。明ぬ星を戴いて。さあひも出るひぬ。まゝ。実まうて。何だ細五郎。二人が向ふわうつ。それごとよ。人を索秘を彼此と。まうめづ。風雨烈く。骨を直と。儼たれが。寒さ。いよ。堪へし。遙小塘の。わうう。火を吹く。のん。て。うか。夏出る。おどろ。あ。あ。の。この天を。半時の。まう。吹。どく。楚。つ。と。古。うら。鳴。せ。小馬栗も。緒。共。不。舌。うら。鳴。せ。う。せ。天も。明。え。飛。治。が。吹。草。も。異。る。げ。唇。を。つ。り。と。う。と。咲。け。が。細五郎。何と。う。ち。笑。ひ。わ。く。ま。濡。る。枝。を。れ。が。輒。々。火。も。う。つ。づ。く。だ。あ。う。海。静。不。志。も。へ。い。ま。二人の。あ。ひ。く。う。息。を。合。て。ゆ。ん。と。三。人。が。口。を。さ。よ。よ。さ。よ。れ。品。と。い。ふ。字。ふ。似。さ。う。う。ね。烟。を。忍。び。て。吹。く。程。は。忽。地。燈。と。燃。る。火。も。あ。の。く。と。め。く。面。を。

合。食。り。う。甚。は。儼。然。と。う。は。ま。心。懸。伍平太。も。も。ま。も。也。蘇。球。丸。の。細五郎。さ。ひ。か。ひ。の。逢。あ。り。と。此。彼。弄。一。身。を。如。下。二人を。左右。又。細五郎。ハ。駈。ぎ。る。矢。も。も。り。伍平太。を。下。と。ま。ま。へ。この。偷。兇。あ。う。む。多。不。惡。を。改。め。い。と。暗。き。身。を。忍。の。間。に。死。鳥。も。が。那。と。細。も。張。ま。も。も。その。身。ハ。既。天。の。網。を。漏。る。針。走。る。ま。や。あ。れ。助。け。を。た。ち。あ。る。と。下。び。び。つ。と。あ。ひ。以。て。追。放。せ。た。遠。く。の。去。る。宮。戸。河。原。を。越。て。ある。今。も。か。ら。る。つ。虫。の。火。虫。不。似。る。青。蠅。も。覚。が。せ。ま。い。た。ま。う。け。が。伍平太。ハ。小。馬。栗。と。目。を。注。して。冷。笑。ひ。死。の。苦。の。数。まで。管。領。より。い。け。ら。れ。る。追。兵。を。殺。して。杖。七。と。舎。義。大。罪。人。あ。る。細五郎。可。惜。首。を。失。ふ。と。罵。ま。つ。小。馬。栗。も。よ。う。け。を。え。せ。と。肩。を。擔。び。し。の。り。比。其。崎。も。た。ち。あ。る。つ。ま。を。追。ひ。と。死。撃。倒。さ。ん。と。い。ひ。い。と。後。ふ。い。よ。之。見。は。棒。怒。も。う。け。て。通。せ。つ。た。あ。る。火。煙。并。慶。門。の。狗。小。馬。栗。が。本。事。を。ま。ん。ま。と。肩。も。も。情。と。細五郎。ハ。微。八。を。信。と。見。あ。り。て。現。面。框。ハ。怒。る。黒。平。が。



野計の悪棍目未より汝が所在を彼此と索し一文字の陣羽織を何処へ隠し
 黒平は何処にある首伏せよとのせもあむ。伍平太微八も声さうさういひつゝ
 さあぐろの。我言を吐く首顛は。管領の女を待たう。又を受よと左右より。巨
 刀を閃く。砂んとまれば。綱五郎の物に。やと身を反りて。左より右より。刀を
 抜あへて。二人を教子を此も撓む。野火を燭も奮撃突戦秘術を。大刀風
 伍平太微八も。うら。鑿き。遠く又さうら。誘されて。めり。共一度を失ひ。塘のく
 逃登る。微八も。臂をさうら。砕られて。滾滾と。轉墮沈へ。火と沈つ。浮つ。泥も。喘ぐ
 右の肩先丁と。砕る。砕る。砕る。苦と叫び。めり。筋斗を。めり。沈み。へ。真逆。後不
 随つ。這わぐ。んと。さる。程。綱五郎。へ。刀を。引。搦。て。水中。不。さ。う。す。この。池。汀。渚。の。淺
 一。僅。は。膝。を。浸。せ。も。泥。う。け。て。足。踏。め。む。枯。残。る。荷。葉。を。携。て。喘。ぐ。悪。棍。水。の

蛇は逆く。蛙のどく。脱。は。が。し。と。ど。ひ。く。ふ。或。は。綱五郎。が。足。を。抱。留。或。は。背
 へ。ま。ぐ。り。著。て。引。倒。え。し。と。さ。る。如。き。う。ろ。わ。ど。は。疎。疎。の。塗。を。泥。を。め。り。く
 切る。羅。埃。丸。が。刀。の。ま。う。不。微。八。も。腕。を。う。ら。落。し。伍平太。が。背。を。飛。く。驅。も
 共。沈。ま。け。で。め。り。う。ら。お。早。中。不。面。を。包。て。一。個。の。徒。者。を。俣。し。る。武。士。塘。を
 西へ。過。つ。と。挑。燈。を。徒。者。が。雨衣。の。袖。に。掩。せ。ま。後。樹。蔭。に。停。立。て。律。の。乃。俸
 と。楚。と。幽。窺。目。今。綱五郎。が。兩。個。の。悪。棍。を。次。伏。し。る。忍。ん。定。て。遠。く。後。者。不
 密。着。つ。木。の。枝。に。投。掛。る。假。捕。の。戎。衣。を。残。さ。う。石。り。に。西。を。投。て。赴
 け。る。あ。つ。れ。も。綱五郎。の。度。き。あ。れ。ば。外。月。せ。ど。暗。夜。の。ま。め。が。れ。が。塘。ま。る。人
 あ。じ。や。ま。い。ど。血。刀。を。引。搦。て。ま。う。岸。の。ぼ。う。う。忽。然。と。さ。や。う。彼。微。八。を。生
 拘。て。這。奴。ま。い。く。責。問。つ。黒。平。が。所在。を。ま。る。く。陣。羽。織。を。さ。う。復。さ。う。ま。が。い
 と。あ。り。う。ら。の。忍。早。ア。く。微。八。を。教。せ。の。怒。は。あ。世。過。失。る。う。う。あ。れ。と。を

志をり。とひらりこころうら夜の裏もて刃を押しへば水鳥さうら明六の
 籬も物をさるる。十女房の細五郎がうらうらとさうらうらとさうらうらとさうら
 暮めて彼此と索する。細五郎が鞆の内よりさうらうらとさうらうらとさうらうらと
 挑燈を左子のうらうらとさうらうらとさうらうらとさうらうらとさうらうらと
 声入あうらうらと細五郎の信とさうらうらとさうらうらとさうらうらとさうら
 うらうらとさうらうらとさうらうらとさうらうらとさうらうらとさうらうらと
 玉の夜もすのくとさうらうらとさうらうらとさうらうらとさうらうらとさうらうらと

糸櫻春蝶奇縁卷之八終

